

●空気漏出症候群（気胸、縦隔気腫など）

風船を膨らますには最初に高い圧が必要です。肺胞も、肺水をどかし空気で膨らませるためには、最初に高い圧が必要です。そのため出生直後にかかる自発呼吸の圧は高く、肺胞壁が破れて空気が肺胞外に漏れてしまうことがあります。生直後に呼吸を確立させるための人工呼吸でも破れてしまうことがあります。何らかの原因で空気の入りやすい肺胞と、入りづらい肺胞ができてしまい、入りやすい肺胞にどんどん空気が入っていき過膨張になり破れることもあります。新生児一過性多呼吸、呼吸窮症候群や胎便吸引症候群に伴うこともあります。

肺胞外に漏れた空気は肺を圧迫し、さらに進行すると肺が縮んでしまい呼吸が苦しくなります。漏れる場所により間質性肺気腫、縦隔気腫、気胸、皮下気腫などに分類されます。治療は酸素を投与します。漏れた空気の量が多ければ胸壁に管を留置し吸引します。人工呼吸器管理や鎮痛鎮静剤も必要な場合があります。